

【投信調査コラム】

日本版ISAの道 その117

NIPPON
INDIVIDUAL
SAVINGS
ACCOUNT

日経平均株価乱高下! この様なボラタイルな相場展開の中でこそNISAでも活用されている積立投資!

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

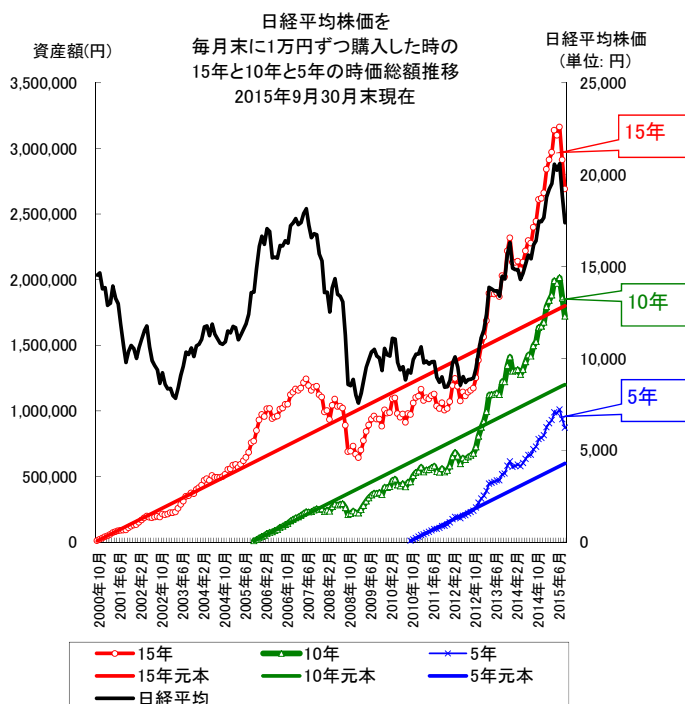
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

日経平均株価乱高下! この様なボラタイルな相場展開の中でも積立投資は有効?

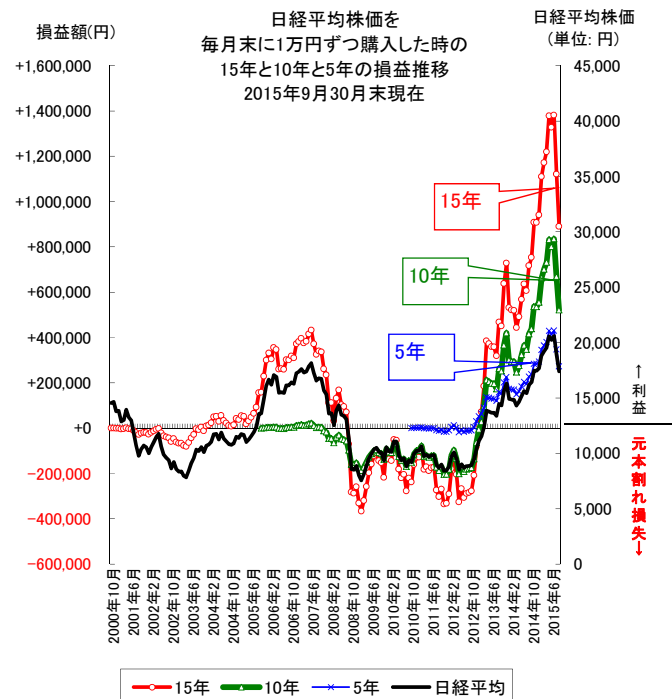
2016年からはジュニアNISAに向け、金融機関の中には既に口座開設の申込予約を行っているところもある。年齢の若い資産形成層や投資初心者が、このジュニアNISAや(成人)NISAを活用して投資を行う際に有益な手法と考えられているのが、積立投資である。2015年9月は中国など新興国経済の減速に対する警戒感などで、相場は非常にボラタイルな展開だった。日経平均株価は9月29日に16930.84円と2015年1月16日以来8カ月半ぶり安値を付けて、その後は反発、10月9日には18438.67円と9月9日の来高値まで戻している。

その中、10月6日付日本経済新聞夕刊に「日本株の歴史から学べる教訓は、1つの資産に集中投資してそれはずれば、いくら長期投資でも報われにくいというリスクだ。…(略)…。リスクを避ける手法の一つは時期と対象の分散だ。日本のバブル崩壊後、世界全体の株価指数に連動する投信があったとして毎月定額で積立投資していれば、資産は14年末時点で累積投資額の3倍弱になっていた。」(URLは[参考ホームページ]参照)とあった。この様なボラタイルな相場展開の中で積立投資は有効なのだろうか? それを以降で検証する。

まず下記は、日経平均株価について、2015年9月末までの投資期間5年間、10年間、15年間の元本とリターン(損益)をグラフにしたものである。日経平均株価は2015年6月24日に20868.03と1996年12月5日以来18年6カ月ぶりの高値を更新、いずれの投資期間でも元本を大きく上回る利益となったが、この9月の急落で利益が大きく減った事が示されている。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

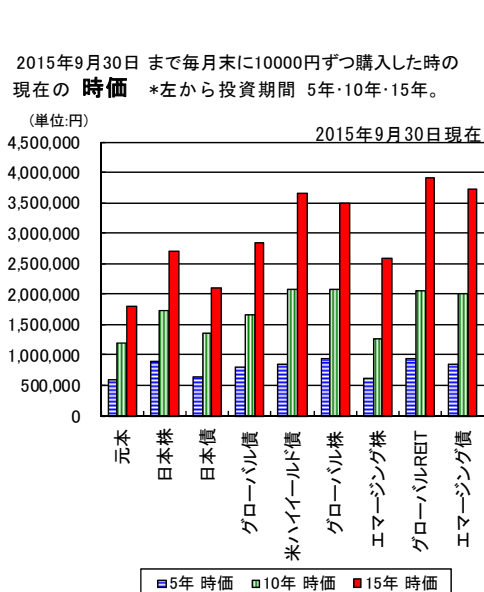
日経平均株価は 225 銘柄から構成されており、かなり分散されていると言える。だが、日経平均株価以外、同じ日本株でも機関投資家がベンチマークとしている事も多い TOPIX/東証株価指数(2015 年 10 月 9 日現在 1891 銘柄)ではどうだろうか。さらに個人投資家が投信経由で NISA でも投資可能な日本債やグローバル債、米ハイイールド債やグローバル株、エマージング株やグローバル REIT、エマージング債などではどうだろうか。実際、NISA で投信積立を行う投資家においては、グローバル株ファンドが一番人気で、次いでアセットアロケーションファンドや外国債券ファンドが人気である(2015 年 10 月 5 日付日本版 ISA の道 その 116 参照～後述 URL[参考ホームページ]参照)。

加えて、時期の分散を検証してみたい。前述したように 2015 年 6 月末に売却した場合には利益が大きかったが、9 月末では大きく減っている。ここは売却時点の検証をすべきであろう。以下ではそのあたりも配慮した多様な検証を行う事とする。

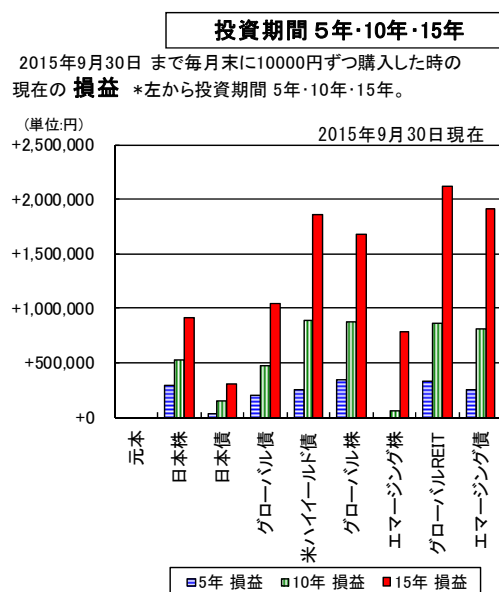
積立投資を多様な対象、多様な期間で検証する

積立投資の多様な検証をすべく、定額投資(等金額投資、ドルコスト平均法)による積立のリターン/リスクを投資商品のベンチマーク別に見る。検証は、毎月末に 1 万円ずつ積立購入してきたケース、つまり、毎月 1 万円定額の積立を、投信に使われることの多いベンチマークで見る。ちなみに、(成人)NISA の年間投資上限額は現行 100 万円(2016 年 1 月から 120 万円)で、単純に 12 で割ると月 8.3 万円程度(2016 年から 10 万円)となる。だが、実際の NISA1 口座あたりの毎月の積立設定額は全平均で約 3 万円であり(2014 年 12 月末の金融庁公表資料より)、わかりやすくすべく、若者や働く世代にも現実的な金額の 1 万円としている(*ジュニア NISA と似る部分の多い「こども(学資)保険」でも月 1 万円が多い～2014 年 11 月 4 日付日本版 ISA の道 その 78～後述 URL[参考ホームページ]参照)。それを 5 年、10 年、15 年という 3 つの投資期間について見る事とする。

下記グラフは左が 2015 年 9 月 30 日時点の時価で、右が 2015 年 9 月 30 日時点の損益(*手数料等は無視)だ。5 年ではグローバル株(僅差でグローバル REIT)、10 年では米ハイイールド債(僅差でグローバル株)、15 年ではグローバル REIT のリターンが最も良かった。3 カ月前の 6 月 30 日時点では投資期間 5 年でグローバル株、次いで日本株のリターンが良かったが、9 月末では日本株は不調だった。しかし実際 NISA で投信積立を行っている投資家にグローバル株ファンドが人気であった事からすると、現状では合理的な投資と言えそうである。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)
*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している(以下同)。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

続いて売却時点を変える。投資時期のリスクを考慮して時間分散をはかり積み立てしても、売却時点の状況により仮に投資期間が同じでも結果は異なる。特に今回の様なボラタイルな時は尚更である。「**売買のタイミングや投資商品の見直しを考えるのは、資産が大きく増えてからでいいとの見方が多い。**」(2015年4月8日付日本経済新聞朝刊)や「**コツコツ投資の最大の悩みどころは『やめ時』だ。時間がたてばたつほど、運用資産の規模は膨らんでいく。**」(2014年7月6日付日経ヴェリタス)との視点も考慮、売却時点も変えて検証する。2006年から2014年の各年末、2015年9月末の計10の時点で見ると。順に5年のもの、10年のもの、15年のものとなっている。

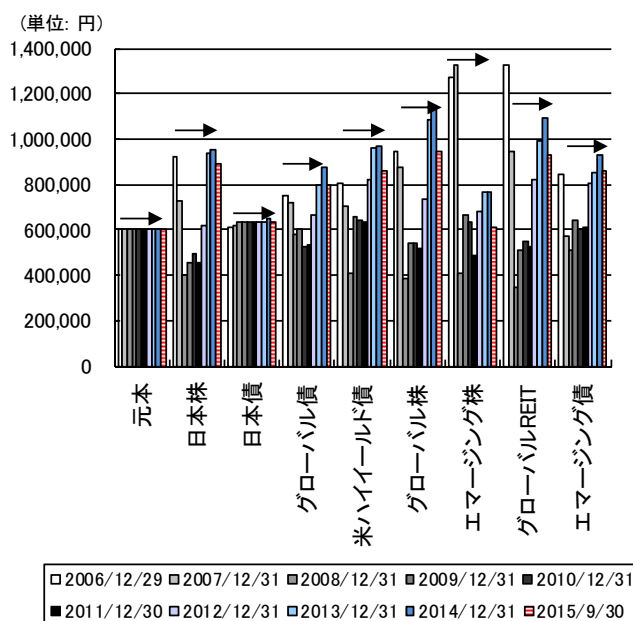
下記グラフの5年を見ると、2006年および2007年末であれば、エマージング株とグローバルREITはとても好かった。しかし、リーマン・ショック(2008年9月15日以降)後にエマージング株もグローバルREITも損失となった。だが、それも2012年以降は回復、2014年にかけて利益は拡大する。ただエマージング株は2015年の6月末までなら好かったが、9月末では利益がほとんどなかった。

日本株は2008年から2011年の年末まで損失であったが、2012年によりやくプラス転換、2013年と2014年は利益となり、2015年は6月末までなら利益は一層拡大していたが、その利益は9月末で小さくなった(2015年6月末の結果については、2015年7月21日付日本版ISAの道その108～後述URL[参考ホームページ]参照)。

次頁上段グラフの10年は下記グラフの5年に比べ全般的に黒字化、そして、次頁下段グラフの15年になるとさらに黒字化が鮮明となっている。今の様なボラタイルな相場展開の中でも積立投資は有効と言えそうである。

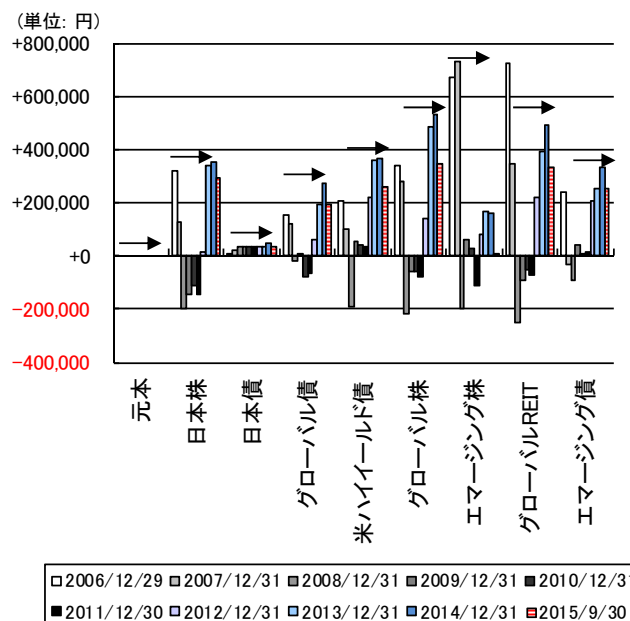
投資期間5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 時価
*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は9月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 損益
*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は9月末。

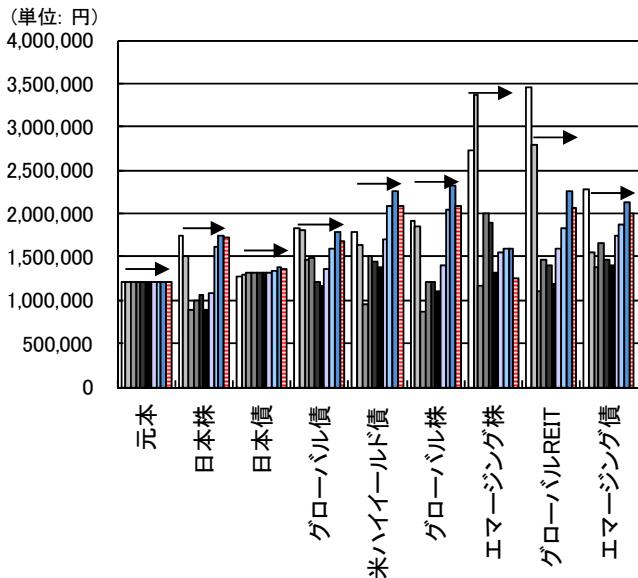


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

投資期間 10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価

*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は9月末。

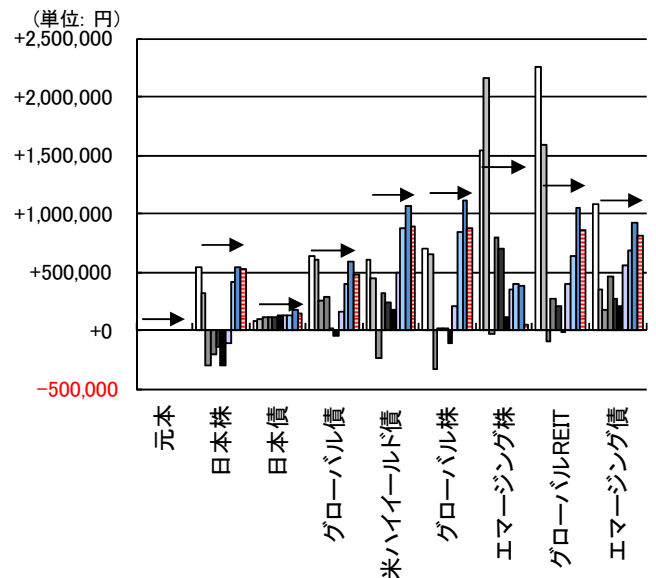


□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
■2011/12/30 □2012/12/31 □2013/12/31 □2014/12/31 □2015/9/30

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益

*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は9月末。



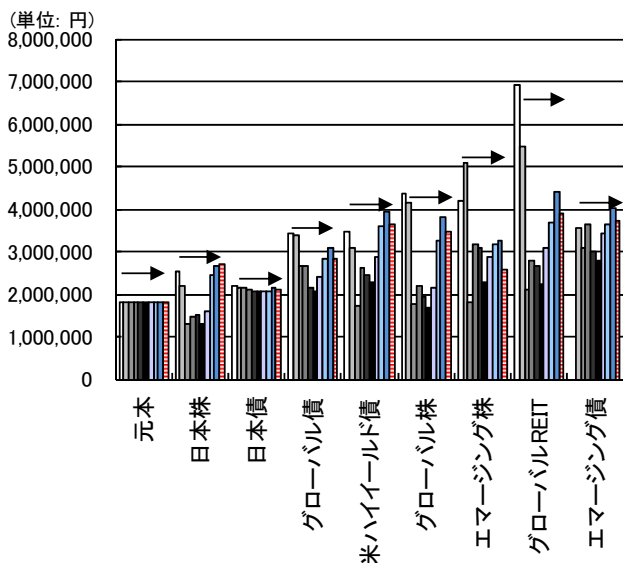
□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
■2011/12/30 □2012/12/31 □2013/12/31 □2014/12/31 □2015/9/30

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

投資期間 15年

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価

*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は9月末。

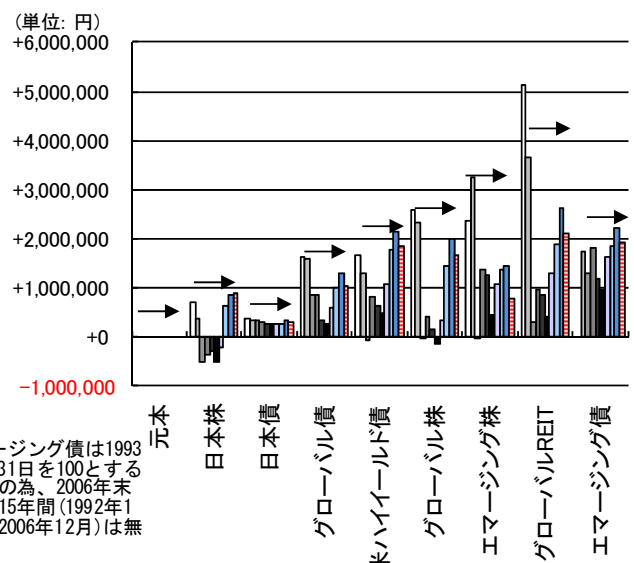


□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
■2011/12/30 □2012/12/31 □2013/12/31 □2014/12/31 □2015/9/30

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益

*左から、2006年～2014年の各年末、2015年は9月末。



□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
■2011/12/30 □2012/12/31 □2013/12/31 □2014/12/31 □2015/9/30

(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

*エマージング債は1993年12月31日を100とするインデックスの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無い。

以上だが、これらのリターン/リスクの大小や安定さを良く見て、投資家は自身のリスク選好度や好み、わかりやすさに応じ投資をする事が奨められよう。投信を前提としているので、以上でも銘柄は十分に分散されているが、さらに、これらを組み合わせたバランス型ファンドやアセットアロケーション型ファンドも良いかもしれない。

ちなみに、NISA が範とする英国 ISA において、圧倒的な販売チャンネルがファンド・プラットフォームである。その最大手ハーグリーブス・ランズダウン(Hargreaves Lansdown)が、2015年9月25日付でHPに掲載した記事に「こうしたボラタイルな市場に投資する際に、よくある誤りは、短期的な動きにとらわれて投資を行う事である。積立投資では毎月自動的に投資が行われるので、感情を入れずにボラタイルな市場に投資される。」と述べ、子供の教育費や住宅購入のために投資を行おうとする両親や祖父母に向けて積立投資(regular savings)を紹介していた(*同社のサービス、「バンテージ・ジュニア ISA 口座」の28%は毎月、投資資金が口座へ自動引き落としされる(funded via a monthly direct debit)という~URLは[参考ホームページ]参照)。

ジュニア NISA、成人 NISA、職場積立 NISA、そして個人型 DC(確定拠出年金)と言った節税出来る金融商品を使い、ここに掲載したリターンやリスクを参考に積立を検討、ぜひ今の様なボラタイルな相場展開の中でも動揺する事なく、積立投資をして資産形成の一助にしてほしいものである。

以上

[参考ホームページ]

2015年10月6日付日本経済新聞夕刊「米大恐慌に負けた日本株」…

「<http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/nisajoukyou.html>」、

2015年10月5日付日本版ISAの道 その116「ボラタイルな相場展開の中、NISAで何が買われたか? 9月の人気は日本株(ブルベア含む)、次いでREIT・グローバル株、新規投資家はアセットアロケーションも人気。」…

「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/151005.pdf>」、

2015年4月24日付金融庁「NISA口座の利用状況について」2014年12月末の積立投資契約件数・積立設定額…

「<http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/nisajoukyou.html>」、

2015年7月3日付金融庁公表「金融モニタリングレポート」コラム積立投資(103頁)…

「<http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/nisajoukyou.html>」、

2014年11月4日付日本版ISAの道 その78「ジュニアNISA vs こども(学資)保険! NISA vs 英国ジュニアISA・米国529プラン!!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141104.pdf>」、

2015年4月8日付日本経済新聞朝刊「長期戦でコツコツ増やすコスト考慮、資産分散を」…

「<http://www.nikkei.com/paper/article/?ng=DGKKZO85385720X00C15A4PPD000>」、

2014年7月6日付日経ヴェリタス…「<http://veritas.nikkei.co.jp/>」、

2015年7月21日付日本版ISAの道 その108「7人に1人がNISAで積立! ~NISAや2016年より開始されるジュニアNISAを使って投資を行おうとする年齢の若い資産形成層や投資初心者にとって、有益な手法(金融モニタリングレポートより)~」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150721.pdf>」、

2015年9月25日付ハーグリーブス・ランズタウン記事(Hargreaves Lansdown)「Five familiar problems with investing for children - and a simple solution」

…「<http://www.hl.co.uk/news/articles/five-familiar-problems-with-investing-for-children-and-their-simple-solution>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・日経平均株価及び日経平均トータルリターン・インデックスに関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。